

2018 年度青山学院校友会 第 2 回アイビーグループ代表者会議

↓ 移会時期 3月 17日(木) 21時 27分 移会

日時 2019 年 1 月 25 日 (金) 18 時
場所 アイビーホール青学会館 2 階「ミルトス」
議長 吉本 徹
司会 浮池 泰

議 題

I. 開会宣言 (浮池)

II. 開会挨拶 (吉本) 13~ 1916 年 選任 18 年 1 月 2 日 函信 (相川会長)

III. 校友会挨拶 (相川 和宏 校友会会長)

IV. 代表者会議議題

1. 2018 年度校友会費増額に伴う

アイビーグループへの活動支援金受給について (吉本)

① 受給の考え方.....資料 1

② 校友会規定改訂案.....資料 2

2. 「アイビーグループ運営規定」改訂案 (吉本)資料 3

3. 今年度以降の代表者会議年 2 回開催について (山脇) 19/7 開催 00/1 (18)

4. 就職支援プロジェクト (雨倉)資料 4

5. 「団体旗」の貸与について (今井) 5 本/年 今年度残り 1 本あり. 次年度 10 本/年
丹心社 227-1.

6. 「あなたと青山学院」の編集について (松永)

7. 新規登録団体の紹介 (浮池)

8. 「青学商店街」について (今井) 東京、サトキウエムオア-ア-ン

9. 団体名称変更団体の紹介 (浮池)

10. 役員変更団体 (浮池)

11. 次期議長選任 (吉本) 11/20 アイビーグループ 山脇 男子
バレーボール大会後理事会

V. 閉会挨拶 (山脇)

VI. 閉会宣言 (浮池)

以上

松永 信一
 ESS・OB会
 青山学院大学
 山脇 昌
 男子バレーを
 応援する会
 浮池 素
 青山オナー会
 吉本 徹
 奥山 仙太郎、
 山脇 昌、
 松永 信一、
 山脇 昌、
 山脇 昌

不動産青山会
 四宮 秀一
 青山学院大学器楽研究会
 土岡 哲朗
 林 伸二セミナール校友会
 石黒 直也
 青山学院大学卓球部OB会
 吉沢 瞭一
 ヨット部OB会
 中尾 義一
 青山学院大学アイスホッケーOB会
 山田 良平
 青山学院大学体育会ラグロ
 ス部OB(OG)会
 温湯 達也
 青山経済人会
 松山 勝美

剣友会
 上手 康弘
 青山学院大学オナーオナエ
 タイ合唱団OB(OG)会
 杉井 要一郎
 サッカー部OB会
 植松 真徳
 青広会
 奥山 久
 常青寮 緑友会
 川口 和男
 青山学院高等部経上員会
 OB会
 沖山 哲
 青学会計人クラブ
 柳下 久米夫
 青山緑水会 (青龍部OB会)

青龍 青龍金福論セミナール
 OB会
 林 実
 自動車部OB会
 吉田 裕
 空手道部OB会
 伊奈 信一
 青学社労士会
 池田 素康
 新聞編集局OB会
 伊藤 恭子
 青学会 (療法部OB会)
 谷村 直人
 榎本アドグルOB会
 血澤 哲二
 青山学院法曹会
 鈴木 健司

青山学院音楽系OB会
 宮宇地 正喜
 バドミントン部OB・OG会
 笠野 孝男
 東アドヴァイザリーグループ
 OB会
 二島 豊久
 青山コアアラースブレンヂ
 市瀬 和敏
 青山トラベルソサエティ
 吉田 晃
 青山学院大学ワンダー
 フォーグル部OB会
 島崎 勉
 青山学院大学ESS・OB会
 熊谷 万紀
 体育会ハイキング部分やと
 会
 愛宕 信義

青山学院大学競技ダンス部
 OB(OG)会
 吉倉 康夫
 青山学院大学古美術研究会
 OB会「数会」
 長谷川 和芳
 青山オナー会
 平塚 雅英
 ワイルキンソン音楽アドク
 ルOB会
 言波 弘
 理工ヨットセーリング部OB
 会
 田中 知実
 青山学院大学卒業生教職員
 校友会連の会
 祐津 啓
 青山学院高等部男子バス
 ケットボール部OB会
 加藤 千博
 卒業委員会OB会
 西 哲一郎

青山キリスト教学生会ぶ
 どの会
 小川 洋一
 経門会 (ソフトテニス部OB
 会)
 守屋 敏夫
 ドクター青学会
 奥山 裕子
 緑ヶ丘山岳会 (山岳部OB
 会)
 下河邊 史郎
 茶道部OB会
 裕下 研一
 つたの会 (高等部宗教部
 OB・OG会)
 向山 功
 青山学院長岡同好会OB会
 阿部 侃
 金融青山会
 松浦 健二

校友会会長
 相川 和宏
 校友会副会長
 今井 祥雅
 校友会副会長
 宮 直仁
 校友会副会長
 前田 美智子
 校友会副会長
 諸山 啓子

青山学院大学ESS・OB会
 渡辺 嘉也
 高中部ラグビー部OB会
 田中 浩明
 グリーンハーモニー合唱
 団OB会
 吉岡 勝見
 金融青山会
 柿崎 忠麿
 応援団OB会
 野崎 武夫
 青学社労士会
 岩野 麻子
 高等部野球部OB会
 遠藤 敏明
 雅弘部学生会 (久保・橋本・仙
 波・田中ゼミOB会)

アイビィグループ選出代表職員

職種別系
 ゼミナトク
 他
 文科系
 体育系

OG
 〇〇政経
 サワカワ、進教授
 赤いエッ (吉平校長)

「活動支援金」受給要望案

アイビーグループ各団体は、その活動費用をすべて自前でまかなくなってきました。
たとえば、各団体での定期総会やセミナー開催、現役学生に対する対外試合応援、就職支援や進路相談などいずれも青山学院校友の親睦を図り、母校に貢献する活動です。

相川校友会長のご努力で2018年度から校友会費増額が実現しました。これを機に各団体の活動を更に活性化し、校友の親睦と母校への貢献を一層深めるためにも各団体への活動支援金を校友会から支給していただけるよう、受給要望の考え方をまとめるとともに校友会規約のアイビーグループ規定改定案を策定しました。

1. アイビーグループ各団体の活動に伴う費用

アイビーグループ選出代議員が所属する団体の活動に伴う費用をヒアリングし、以下の項目に大別しました。対象からは飲食費を除外しています。

一般的には、総会開催案内のDM発送費用程度と思われがちですが、多岐にわたっていることが明らかになりました。

費目		具体例	
①	総会費用	i.	会場費
		ii.	設備費(マイク、プロジェクター、PC等)
		iii.	総会案内(案内状作成、配布費等)
		iv.	総会報告(報告書作成、印刷等)
		v.	資料(校友会組織図、校友会での活動報告作成・印刷等)
		vi.	運営費(賞品、講師謝礼、パネラー謝礼・交通費等)
②	広報費用	i.	試合での応援グッズ、配布物
		ii.	同窓祭でのパネルディスカッション等イベント宣伝費
		iii.	OBへの配布・送付物(定期会報、活動報告、試合結果、住所録、写真等)
		iv.	在校生就職支援委員会での講師募集チラシ
③	連絡費	i.	幹事会費
		ii.	名簿修正費
		iii.	幹事間連絡費(電話・郵便・FAX等)
④	その他	i.	現役学生進路相談(謝礼なし、交通費自前)
		ii.	同窓祭での相談会に相談員派遣(謝礼なし、交通費自前)
		iii.	合宿費(コーチ交通・宿泊費、支援金等)

2. 受給金額要望案

上表のように、多様な活動の中で費用項目や金額も多様です。

一方、「活動支援金」が支給された場合の用途については以下のように分類しました。

費目		具体例	
①	総会費用	i.	総会講師としての大学教員招聘費用
		ii.	セミナーやイベントでの講師・パネラー等への謝礼
		iii.	会場費
②	広報費用	i.	会員への広報紙復活
		ii.	メールで連絡できない高齢OBへの総会開催DM等の郵送費用
		iii.	現役学生との連携費用(会報発行・送付、セミナー招待等)
		iv.	試合時の応援グッズ作成、配布
③	連絡費	i.	幹事連絡費用(総会用資料送付等)
		ii.	名簿修正費
④	その他	i.	青山学院への相談員や講師派遣時の交通費
		ii.	監督・コーチへの報奨金

これらの金額には幅があるため、下限と考えられる「10万円」を要望案としました。

3. 今後の流れ

今回の「要望案・アイビーグループ規定改定案」は、今後「正副会長会」及び「常任委員会」審議を経ます。

以上

アイビーグループ規定

現行

第1章 総則

(目的)

第1条 この規定は、青山学院校友会アイビーグループについて定める。

第2章 アイビーグループの定義

(アイビーグループの定義)

第2条 アイビーグループとは、校友を構成員とする体育系団体・文化系団体・ゼミナール・アドバイザグループの団体・職種別等の団体で、青山学院校友会の認定を受けた団体をいう。

ただし、同窓会内同期会等は除くものとする。

第3章 登録認定基準

(登録認定基準)

第3条 アイビーグループの認定を承認されるには、下記の項目を満たしていなければならない。

- (1) 会員 青山学院校友会正会員であること
 - (2) 会員数 20名以上であること(会費納入会員を基本とする)
 - (3) 会則 団体としての会則を有していること
 - (4) 責任者 会長等の責任者が明確であること
 - (5) 目的 青山学院の建学の精神に則り、青山学院校友会の目的と乖離が無い非営利団体であること
 - 政治の関与が無い団体であること
 - (6) 継続性 設立後5年以上の活動実績があること
- ただし、常任委員会が認めた場合はこの限りではない。

第4章 アイビーグループの認定及び取り消し

(アイビーグループの認定)

第4条 アイビーグループの認定は、アイビーグループ認定申請書に会則・会員名簿・役員名簿及び事務局組織・活動状況等の書類を添付して申請しなければならない。

第5条 正副会長会にて審議し、常任委員会において承認する。

アイビーグループ規定改訂案

改訂案

第1章 総則

(目的)

第1条 この規定は、青山学院アイビーグループについて定める。

第2章 アイビーグループの定義

(アイビーグループの定義)

第2条 アイビーグループとは、校友を構成員とする体育系団体・文化系団体・ゼミナール・アドバイザグループの団体・職種別等の団体で、青山学院校友会の認定を受けた団体をいう。

ただし、同窓会内同期会等は除くものとする。

第3章 登録認定基準

(登録認定基準)

第3条 アイビーグループの認定を承認されるには、下記の項目を満たしていなければならない。

- (1) 会員 青山学院校友会正会員であること
 - (2) 会員数 20名以上であること(会費納入会員を基本とする)
 - (3) 会則 団体としての会則を有していること
 - (4) 責任者 会長等の責任者が明確であること
 - (5) 目的 青山学院の建学の精神に則り、青山学院校友会の目的と乖離が無い非営利団体であること
 - 政治の関与が無い団体であること
 - (6) 継続性 設立後5年以上の活動実績があること
- ただし、常任委員会が認めた場合はこの限りではない。

第4章 アイビーグループの認定及び取り消し

(アイビーグループの認定)

第4条 アイビーグループの認定は、アイビーグループ認定申請書に会則・会員名簿・役員名簿及び事務局組織・活動状況等の書類を添付して申請しなければならない。

第5条 正副会長会にて審議し、常任委員会において承認する。

第8章 アイビーグループの運営

(アイビーグループの運営)

第10条 アイビーグループの運営は、各団体が定める会則により運営される。

- 2 アイビーグループ会則の目的は青山学院校校友会会則の目的を逸脱してはならない。
- 3 アイビーグループの運営を支援するため、別表1の条件を満たす団体からの申請により、年間10万円を支給する。
- 4 団体の名称、会則等の届け出事項に変更が生じた場合は、速やかに書面をもって校友会本部に通知する。

附則1.本規定は2005年4月1日より施行する。

2006年6月24日改正

2008年6月21日改正

2010年6月26日改正

✓ 2013年2月12日改正

✓ 2019年 月 日改正

別表1 活動支援金支給基準

1. 会員数 常時活動する会員が20名以上いること。(会費納入者、総会参加者等)
2. 責任体制 会長、副会長、事務局長、会計責任者等の役員体制が明確になっていること。(役員名簿が整備されており、役員の住所、電話番号、メールアドレス等が明記されていること)
3. 活動 年1回以上の総会が開催されていること。
4. 日常運営 会則に則った運営が行われており、収支が会員に公開されていること。
5. 代表者会議への出席 アイビーグループ代表者会議に会長または代理の者が出席していること。

校友会アイビーグループ運営規定（現行）

第1条（目的）

この規定は、校友会諸規定にある「アイビーグループ規定」を補完し、アイビーグループを円滑に運営することを目的とする。

第2条（議長、副議長）

前条「アイビーグループ規定」第7条2に規定されている議長のほかに、議長の職務を補佐し、議長に事故あるときはその職務を代行する副議長1名を設置する。

2 副議長は、議長が指名し、本規定第4条幹事会及び第5条アイビー会議にて承認されるものとする。

第3条（編集委員）

校友会広報紙におけるアイビーグループ頁の編集等印刷物の編集、発行の担当として編集委員1名を設置する。

第4条（幹事会）

幹事会は、アイビーグループ議長、副議長、アイビーグループ選出校友会常任委員、編集委員、幹事4名で構成し、プロジェクトの設置や進捗、広報紙編集方針骨子立案等の活動案作成及び進捗状況の把握を行なう。

2 幹事は各人、異なる団体からの参画とする。

3 幹事が出席できない場合は、その所属団体内からの代理出席を認める。

4 幹事会は議長が招集する。ただし、幹事会メンバーの過半数の要求があるときは、議長はこれを召集しなければならない。

第5条（アイビー会議）

幹事会メンバーとアイビーグループ選出代議員で構成する「アイビー会議」において幹事会が作成した活動案について審議する。

2 同様に幹事会が作成した活動の進捗報告について検討する。

3 アイビー会議は議長が招集する。ただし、アイビー会議メンバーの過半数の要求があるときは、議長はこれを召集しなければならない。

第6条（プロジェクト）

本規定第4条1により設置されたプロジェクトには幹事会メンバーの他、活動のために必要と認められる登録団体所属員の参画を適時要請する。

2 プロジェクトリーダーはアイビー会議メンバーが務める。

3 参画を希望する登録団体所属員についてはそれを妨げない。

附則1. 本規定は2015年4月1日より施行する。

校友会アイビーグループ運営規定（改訂案）

第1条（目的）

この規定は、校友会諸規定にある「アイビーグループ規定」を補完し、アイビーグループを円滑に運営することを目的とする。

第2条（議長、副議長）

前条「アイビーグループ規定」第7条2に規定されている議長のほかに、議長の職務を補佐し、議長に事故あるときはその職務を代行する副議長1名を設置する。

2 議長はアイビー会議にて被推薦者を選出し、代表者会議にて選任される。

3 副議長は、議長が指名し、本規定第4条幹事会及び第5条アイビー会議にて承認されるものとする。

第3条（編集委員）

校友会広報紙におけるアイビーグループ頁の編集等印刷物の編集、発行の担当として議長の指名により編集委員1名を設置する。

第4条（幹事会）

幹事会は、アイビーグループ議長、副議長、アイビーグループ選出校友会常任委員、編集委員、幹事4名で構成し、プロジェクトの設置や進捗、広報紙編集方針骨子立案等の活動案作成及び進捗状況の把握を行なう。

2 議長、副議長、常任委員、編集委員以外の幹事4名はアイビーグループ各団体の中から議長が指名する。

3 幹事は各人、異なる団体からの参画とする。

4 幹事が出席できない場合は、その所属団体内からの代理出席を認める。

5 幹事会は議長が招集する。ただし、幹事会メンバーの過半数の要求があるときは、議長はこれを召集しなければならない。

6 幹事会各メンバーの任期は1期2年とする。

第5条（アイビー会議）

幹事会メンバーとアイビーグループ選出代議員で構成する「アイビー会議」において幹事会が作成した活動案について審議する。

2 同様に幹事会が作成した活動の進捗報告について検討する。

3 アイビー会議は議長が招集する。ただし、アイビー会議メンバーの過半数の要求があるときは、議長はこれを召集しなければならない。

第6条（プロジェクト）

本規定第4条1により設置されたプロジェクトには幹事会メンバーの他、活動のために必要と認められる登録団体所属員の参画を適時要請する。

2 プロジェクトリーダーはアイビー会議メンバーが務める。

3 参画を希望する登録団体所属員についてはそれを妨げない。

附則1. 本規定は2015年4月1日より施行する。

2. 本規定は2019年1月25日より施行する。

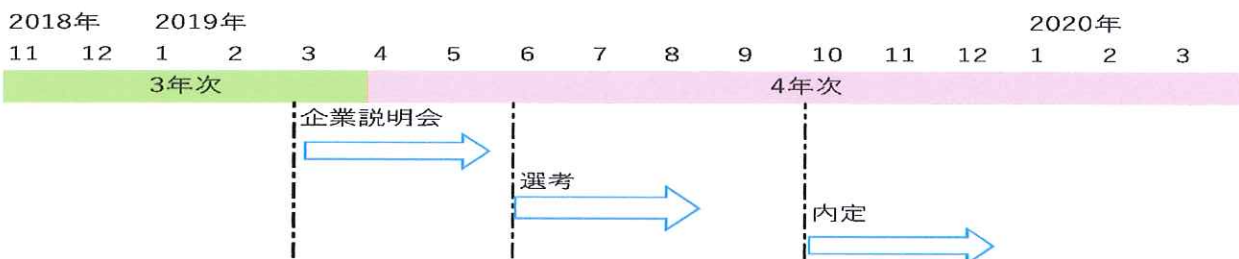
2018年度 在校生就職支援委員会 活動状況

2018年度の本委員会活動は、2019年3月からの企業説明会開催を控えて活動のピークを迎えており、2月2日の業界研究（於：青山キャンパス）に続いて連続的に模擬面接を予定しています。

- OBOGとの交流カフェ** OBOG、内定者との交わりで、「仕事とは？」に“気づき”を得る。近年は就活のスケジュール感やインターンシップの事など具体的な質問が増加傾向。
- 模擬面接** OBOG講師（原則として現役の人事担当者）ならでの、個々の学生の状況に合わせた指導を心がける。
- 業界研究** 2017年度より2回開催とし、初めの回は人気/実績業種に絞ってまずは業界研究に手を付けさせ、2回目は業種を大幅に広げて業界選択に俯瞰性を持たせつつ精度を上げていく。

2018年度							2017年度		
月	日	イベント名	対象	場所	参加学生数	講師数	備考	日	イベント名
4月	7日	模擬面接	4年生	青山	63	11		15日	模擬面接
	21日	模擬面接	4年生	相模原	18	8		22日	模擬面接
5月	19日	OBOGとの交流カフェ	1~3年生	青山	55	15		13日	模擬面接
								27日	OBOGとの交流カフェ
6月	2日	OBOGとの交流カフェ	1~3年生	相模原	31	14		10日	OBOGとの交流カフェ
								17日	模擬面接
7月								8日	OBOGとの交流カフェ
8月									
9月									
10月	13日	OBOGとの交流カフェ	1~3年生	青山	57	30		21日	OBOGとの交流カフェ
	27日	業界研究	1~3年生	相模原	60	21			
11月	17日	業界研究	1~3年生	青山	93	25		18日	業界研究
								25日	業界研究
12月	1日	模擬面接	3年生	青山	16	13		9日	模擬面接
	15日	複数大学合同模擬面接会		相模原	60	12	全体では、189名	16日	複数大学合同模擬面接会
1月	12日	模擬面接	3年生	青山	30	13		13日	模擬面接
								20日	模擬面接
2月	2日	業界研究	1~3年生	青山				3日	業界研究
	16日	模擬面接	3年生	青山				16日	報告会
	23日	模擬面接	3年生	相模原				17日	模擬面接
	23日	模擬面接	短大生	青山				24日	模擬面接
3月	9日	模擬面接	3年生	相模原				17日	模擬面接
	16日	模擬面接	3年生	青山					
	22日	報告会							

経団連指針に基づく現3年生（2020年入社予定）の就活スケジュール



各団体への若手OBの協力依頼

2019 年度「あなたと青山学院」編集方針

アイビーグループ編集委員
松永信一（1978 年文学部卒）

「あなたと青山学院」のアイビーグループページでは記事が ALL 青山の為、文字原稿が多くて、文字が小さく、高齢者に優しくありません。文字を少なくして写真を多用して動きのあるページにしたいと思っています。以下の項目にどうぞご協力お願いいたします。

- ① 今年も、特別寄稿と掲示板の 2 本立てでいきます。
大きなイベント記事などは優先いたします。
- ② 特別寄稿（写真入り 400 字制限）締め切り厳守ですが、早いうちの到着分を優先いたします。なお、写真を大きく出したいクラブは文字原稿を 400 字以内にして写真にスペースをとることもできます。原稿のタイトルは必ず入れて、現役生の紹介は名前と学部のみにしてください。（学科を省く）
- ③ 掲示板（200 字制限）少ないスペースなので、イベントの項目を箇条書きに入れるとそれだけで終わってしまいます。簡潔に書いてください、詳細はクラブ HP などでお知らせください。
- ④ 連絡先の個人メールアドレスは個人情報保護のために入れないでください。校友会のメールアドレスが明示してありますので、連絡は校友会を通してください。
- ⑤ 文字原稿と写真（jpeg 画像）は別々にお送りください。ワードなどに写真を埋め込まないでください。また、写真のファイル名をそのまま写真のキャプションにしますので、入れたいキャプションを写真のタイトルにしてください。「(例) 1 部優勝時の記念撮影」
- ⑥ 原稿用紙形式の升目を使ったもので入力しないでください。テキストファイルに変換しないといけません。文字数のカウントと校正はワードなどのソフトに機能がついていますので提出前に直してください。元原稿を尊重しますが、文字数が多い、一文が長い、また表記の統一などはこちらにて編集いたします。
- ⑦ 安全に原稿を受領するため、送付先は青山学院校友センター alumni@aoyamagakuin.jp と編集委員 松永 shin320022@gmail.com まで同送ください。

今後の発行予定 29 号 2019 年 2 月 22 日
30 号 2019 年 7 月初旬

以上

東京新聞

◆中日新聞東京本社
東京都千代田区内幸町二丁目1番4号
〒100 8505 電話 03(6910)2211

施設出身者推薦入試で青学大に

「誰もが夢見てもいい社会に」

児童養護施設で暮らす子どもたちの大学進学を後押ししようと、青山学院大(東京都渋谷区)は、全国的にも珍しい、施設出身者を対象にした推薦入試制度を導入した。今春、第一号で入学した桜井彩子さん(仮名)は願う。「誰もが夢をみてもいい社会にしたい。制度が広まればうれしい」(木原育子)



施設出身者を対象にした推薦入試制度で青山学院大へ入学した桜井彩子さん(仮名)＝東京都渋谷区で(木口慎子撮影)

学費免除、給付金 制度広がり願う

「夢じゃないよね?」。昨年十一月、桜井さんは合格通知を手に、施設職員らと泣きながら喜んでた。「私は本当に幸運でも、施設には経済的な理由で将来の道をあきらめざるを得ない子の方が多い。自分だけがつかめたような幸せに、少し胸が痛んだ。」

二カ月後、姉、弟と一緒に神奈川県内の児童養護施設に入所。慣れない集団生活や母親がいない現実を受け入れられず、気がおかしくなりそうだった。でも、涙一つ見せず自分と弟を支えてくれる姉の隣で、泣き虫のままではいられない。施設が併設する中学校から奨学金で一般の高校へ進み、将来について真剣に考え始めた。

得意の英語を磨き、世界に羽ばたく女性になりたい。でも、金銭的な支援がなければ進学はかなわなかった。施設が併設する

「人生はあきらめたら、そこで終わる」。学習支援のボランティアで施設にきていた男性にも励まされた。この男性は偶然にも青山学院大の卒業生。そんな縁もあり、推薦入試に応募すると、見事に合格した。「みんなと一緒に勉強できる環境にいられることが、うれしい。大学へ入学し、そう実感している。桜井さんの母親は生前、通訳の仕事をしてた。優しくて明るい、自慢の母だった。「私も母のように将来は英語を使って、人と人とをつなぐ仕事したい」と夢は広がる。

もう一つ、願いがある。「お金があれば大学に進み、将来が開けたという施設出身の子はたくさんいる。誰もが夢をみてもいい社会にしたい。そうじゃないければ、私にとって本当の幸せとは言えない」

養護施設出身者 大学進学率わずか14%

厚生労働省によると、昨年の児童養護施設出身者の大学進学率は14%で、全国平均52%の3割以下にとどまっている。2012～16年の5年間、施設出身者の大学進学率は11～12%で低迷を続けている。

立教大コミュニティ福祉学部(埼玉県新座市)は15年度から、入試に合格した施設出身者の4年間の学費を

無料にし、年間80万円の奨学金を給付している。早稲田大も全学部を対象に17年度から、学費を4年間無料にし、月9万円を給付している。

青山学院大は18年度から、施設出身者に限定した推薦入試制度を学部にかかわらず設けたのが特徴。

合格すると、学費が4年間無料になり、月10万円の奨学金が給付され

る。試験は高校の成績を重視した書類選考と面接。初年度は全国から約10人が応募し、2人が入学。来年度も2人の入学が決まった。

三木義一学長は「全国の大学が施設出身者を1人ずつ受け入れれば、600人ほどの子どもの未来が広がる。日本の大学が一丸となって、取り組んでいくことが理想だ」と話す。

2018年度 アイビーグループ代表者会議 懇親会式次第

日 時： 2019年1月25日（金）19時10分より

会 場： アイビーホール 3階「アロン」

司会進行／浮池 泰（青山オーナー会）

1. 開会祈祷 小川 洋一 青山キリスト教学生会ぶどうの会
2. 来賓紹介
3. 開会挨拶 吉本 徹 アイビーグループ代表者会議議長
(榎本アドグルOB会)
4. 来賓挨拶 堀田 宣彌 理事長
5. 校友会挨拶 今井 祥雅 校友会副会長
6. 乾 杯 山本 与志春 院長

— — — 懇 親 ・ 懇 談 — — —

7. グリーンハーモニー合唱団 OB会 演奏

曲目：混声合唱 “赤とんぼ” “時代(中島みゆき)”

グリーンハーモニー合唱団 OB会 S:佐藤祐子 A:内籐淳子
T:吉岡勝見 B:中川卓郎

8. 募金(MITE BOX) 野中 伸也 (校友センター)
峯尾 優 (校友センター)
9. カレッジソング 青山学院大学応援団
10. 閉会挨拶 山脇 昌 アイビーグループ代表者会議副議長
(男子バレーを応援する会)

以上